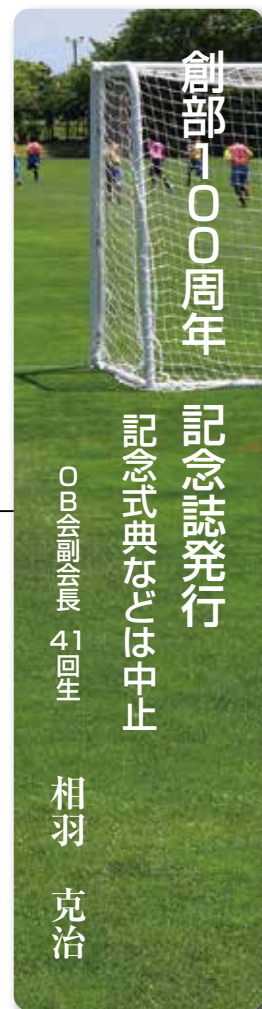


OB会報

湘南サッカー部 OB会報 第40号



平素はOB会活動にご協力いただき感謝申し上げます。

今年は創部100周年という事で記念事業などを予定しておりました。ところがご存じのように、新型コロナウイルスの猛威が治まらず、1月の蹴球祭をはじめ夏のOB会やセミナーなど様々なイベントが中止・変更になりました。

そんな中、足掛け4年に及び編集をしてきた記念誌「湘南蹴球百年誌」が発行されました。8名の編集委員を中心に関係各位のご協力で纏めることが出来ました。中でも特筆すべき活躍をされた二人を紹介いたします。

一人はOB会事務局長で編集責任者の48回生関佳史氏です。県のサッカー協会副会長も務めており、記念誌の編集方針にそって、各方面への取材聞き取り、資料収集、及び事実確認作業など長期にわたり多大な努力をされました。膨大な「記念誌の基」はこうして作られました。

創部100周年 記念誌発行

記念式典などは中止

OB会副会長 41回生

相羽 克治

もう一人は、全体の構成と本文の執筆をされた、毎日児童小説最優秀賞、織田作之助賞などを受賞した文筆家41回生植松二郎氏です。本人自らもインタビューをするなど精力的に活動され「膨大な資料」をもとに、ドキュメンタリーとして「読み物」として傑作を生みだしてくれました。是非ご一読ください。

●スペイン研修旅行

新型コロナウイルスの影響で2021年の研修旅行は中止となり、22年3月の催行に向け、5月には保護者会を開き説明・意見交換を行いました。「保護者アンケート」の話もありましたが、コロナの状況が全く好転せず残念ではあります。8月末に「22年3月も中止」の結論に至りました（予約申込み料金の事情もあり早めに決断）。23年3月は今後の検討事項ですが催行に向け学校とも相談をしていきます。

●選手権県予選、7年ぶりベスト8

コロナの治まらない状況の中、今

年は変則もありましたが3大会（関東・総体・選手権）とも開催されました。練習など特に公立高校は制限が厳しい中選手権予選では7・8月の一次予選を勝ち抜きました。昨年からの指導を受けている小柴コーチの徹底した基礎練習が実を結び始め、選手個人個人の自覚も高まり、夏以降チームは格段の進歩を見せてくれました。2次予選の2回戦からの3試合はいずれも格上のチームでしたが本当に良く戦いました。ベスト8は第5位とも言われます。現役選手の頑張りにはOBにとっては嬉しいことであり、励みにもなります。第3位、優勝を目指してこれからも頑張ってくださいと思います。「県代表」は決して夢ではありません。



2019年に神奈川県サッカー協会副会長を拝命した。私はテレビ神奈川に36年勤務、高校選手権の共催者として長年の関係があり、理事に

就任しその後副会長を引き受けた。神奈川県サッカー協会は、選手登録では全国で3位、審判登録では2位を誇り、Jリーグ6チーム、なでしこ4チームを県内に抱える。全国で唯一、民間の土地を借りてフットボールセンター「かもめパーク」を運営する。47の都道府県FAの中でも大きな組織である。

湘南100年、協会90年の機会に両者の関係の歴史をたどってみる。(氏名は敬称略)

湘南はこの組織の創立メンバーであった。大正15(1926)年9月、神奈川県の中学8校が「神奈川県中学校ア式蹴球連盟」を設立した。当時の県の蹴球の中心は旧制中学(現高校)であった。先行していた横浜二中(翠嵐)、神奈川師範、浅野、関東学院の4校に加えて、大正10(1921)年創立の湘南中ほか4校が新たに参加した。

昭和4(1929)年9月、中学連盟が発展して「神奈川県ア式蹴球連盟」を設立、中学8、専門学校5、クラブ3が構成員であった。湘南サッカーの産みの親、岩渕二郎(2回)は当初から協会の委員となる。岩渕はこのあと半世紀にわたり、湘南サッカーを指導することになる。県協会

の役員(常務理事など)・顧問も断続的にではあったが、継続した。岩渕の熱心な指導で昭和10年代に湘南中は中学選手権3位をはじめ全国レベルで大活躍し、昭和21(1946)年には国体で全国優勝をとげる。戦後、大笠正雄(15回)、田村恵(19回)、山口雄司(20回)、小林忠生(24回)ら日本代表4名を輩出する。一方同年、神奈川県蹴球協会が発足し新たな組織となる。

早川純生(19回)は、東大で選手として活躍ののち、昭和33(1958)年から昭和42(1967)年まで国際審判員として活動、昭和49(1974)年から県協会理事長を務めた。このころ、県協会の事務局は湘南高校にあったとされる。

神奈川県内のサッカーの普及でも湘南OBは大きな貢献を行った。安保隆文(15回)、服部斐夫(16回)は昭和42(1967)年から鎌倉市で少年サッカー教室をはじめ、サッカーの普及では神奈川県をリードした。県内で最も早い時期に少年への普及を開始し、先例となったことが記録されている。

渡島九州夫(30回)は審判委員会、中原弘巳(30回)は社会人委員会の役員・理事として長年、委員会

の運営を支えた。県会議長だった相場定孝(34回)は平成2(1990)年から平成15(2003)年まで副会長を務めた。県会議員の小泉親昂(39回)は地域の協会のとりまとめ、整形外科医の加納正道(43回)はスポーツ医学部会の第一人者として理事に就任し、協会運営の全体を担った。若手では櫻井大輔(79回)が関東ビーチサッカー連盟事務局長、神奈川県サッカー協会ビーチ担当を務め、新しい形のサッカーの普及に力を注ぐ。湘南の先生が県協会などでも活躍した。湘南サッカー部の昭和21(1946)年国体優勝時の香川幹一郎長は、昭和34(1959)年から4年間、県高体連会長としてサッカーを始め各種競技の発展に尽力した。初代の教員監督の宮原孝雄先生は、昭和37(1962)年から5年間、県協会理事長を務めた。

鈴木中先生は、湘南高校に赴任した昭和36(1961)年から、県協会をリードしてきた。同年、26歳の若さで理事に就任。昭和46(1971)には技術委員長、国体県選抜チームの監督も同時に務めた。平成4(1992)年には協会理事長に就任、平成6(1994)年には協会事務所を横浜の阪東橋から湘南台に移転する。平成

8(1996)年には海老名高校校長を退職し事務局勤務となる。平成16(2004)年には協会を社団法人とし、翌年から2年間会長を務めた。

協会は平成25(2013)年に一般社団法人となり、翌年に神奈川県フットボールセンター「かもめパーク」をオープンした。このグラウンドのオープンに当たっては、鈴木中名誉会長が地主の相模鉄道、取り付け道路を管轄する横浜市役所に対して湘南OBルートを介して調整したことで大きく進展した。

湘南サッカー部OB会の事務局長、副会長を務めた相羽克治(41回)は恩師・鈴木中先生からの依頼で、県協会の事務局長を平成4(1992)年から3年間務める。Jリーグ発足、協会事務所移転に尽力。その後、2002年W杯などに関わり、平成26(2014)年協会85周年記念誌の編集委員も務めた。

2021年は、日本サッカー協会、湘南高校とともに創立百年の年だ。百年の歴史の中で、湘南高校と神奈川県サッカー協会とは深いかかわりを持ってきた。また、JFAほか、地方協会で活躍されたOBも多くいる。初期はマイナースポーツにすぎないサッカーが、いまや野球に匹敵する

メジャースポーツに成長した。縁の下で、湘南の先輩の方々が積み上げてきた業績が神奈川県、そして日本のサッカーの土台となったことを忘れないために筆を取った次第である。



コロナの蔓延も2年目となり県内での活動は感染防止対策を行いながら例年と同じ活動が行われていますが、県外の大会は多くの人が集まり感染防止が困難なことから今年も中止となっています。日常の活動は86歳を筆頭に69歳以上のメンバーで元気に活動しています（69歳は全国シニア県予選のみ）。活動は0-70、0-75、0-80等、大会や交流会のカテゴリーに合わせて行っています。また全体では馬入ふれあい公園サッカー場で8月を除く毎週火曜日に行われている0-70神奈川交流会に参加しています。これは神奈川県サッカー協会の主催で行われ、加盟している6チームの合同組織です。さら

に今年から0-75の交流会も試験的に始まり、10月からは0-75リーグ戦の開設に向けてテストリーグも始まりました。メンバー的に単独チームで参加できそうなのはペガサスと茅ヶ崎四十雀の2チームで、ペガサスとしては是非とも単独チームとして参加したいと思いメンバーの確保に努力しています。

1. 0-70の活動

今年度は昨年と同様70代のメンバーで対外試合を行なっています。

全国シニア県予選は2回総当たりで12試合戦いますが、10月末現在4勝2分け2敗です。県シニアリーグは2回総当たりで10試合です。10月末現在6勝2分けです。今年度から0-70も県議長杯トーナメント大会が新設され12月から始まります。

県外の大会は例年2月から11月にかけて行われますが、今年もコロナの影響で12月までのすべての大会の中止が決まっています。

ペガサス70の今年の傾向はどの試合も20名前後の参加者で試合を優位に進められています。下位チームとの対戦ではなかなか得点が奪えず引分けや、最少得点でやっと勝つような状況です。

2021年度は0-70もチーム数

が8チームに増え試合数も今年より多くなります。日常の体のケアを行い、一年間を通して健康で怪我の無い状態を保つことが大切です。

2. 0-75、0-80の活動

75歳以上のペガサス会員は今年20名ですが、実質活動している方は15名ほどです。2023年度の開設を目指して、10月から0-75テストリーグを開始しました。ペガサスも単独チームでの参加を目指しています。今年も昨年同様県外での全ての0-75大会が中止となっていました。0-80も中止です。年齢のことを考えれば、多くの選手が集まるイベントの中止はやむを得ません。0-75の活動としては唯一首都圏0-75の交流会が開催しました。出かけることが少ない高齢者が0-75の交流会に参加し、新型コロナに負けないように、日頃の運動不足を補い健康維持に役立てています。



はじめに、トールラス60は3年前に湘南ペガサスサッカークラブの60代のメンバーが増えて、一人ひとりの試合に出場する時間が極端に短くなってしまう事態が予想されたため結成した60代後半のメンバーから成るチームです。神奈川県シニアサッカーリーグに参加する為にはペガサスの名を使えなかった為、トールラス60というチーム名にしたもの。ですから、トールラス60というチーム名ではありませんが、ペガサスサッカークラブに属するチームです。現在、トールラス60は神奈川県シニアサッカーリーグ六十雀2部に所属しています。今年度は46回生の溝口二郎さんが湘南ペガサスサッカークラブに加入し、トールラス60のメンバーとなりました。今期は神奈川シニアサッカーリーグ六十雀2部の全9試合と県議長杯1回戦に出場する事ができましたが、対戦相手は60代前半のプレーヤー中心のチームが多いため、走力、キック力ともに上回る相手との苦しいゲームとなるケースがほとんどでした。さらに、正キーパーが欠席する試合が多かった事も重なって全敗に終わりました。4点以上の大差で負けた試合が3試合ありましたが、1点差の緊張感のある試合も4試合あ

りました。前半は0..2でしたが、後半2本のミドルシュートが決まって一時は2..2まで挽回したものの終了間際にゴールを許して2..3で負けた惜しい試合もありました。この1点差の4試合は勝つチャンスがあったと思います。

トーラス60は、マークとカバーリングを基本にした組織的な守備で最小失点に抑える事が出来ます。ところが、自ボールになっても、相手ゴールを脅かす攻撃をする事が出来ません。目標としていた外からのセントリングに複数のプレイヤーが飛び込んでシュートを狙うという形はほとんど見ることが出来ませんでした。やはり、若い相手チームとの走力の差が大きかったと言わざるを得ません。それでも、シーズンを通じて、骨折などの大きなケガも無くサッカーを楽しむことが出来たのは評価できます。

来期は、代表・西田、監督・菅浦の新体制で臨む事になります。また、複数のメンバーがベガサス70に移籍する見込みですが、出来るだけ多くのメンバーがトーラス60にも籍を置いてトーラス60の戦力となる事を期待します。

これから、湘南ベガサスサッカー

クラブの第一の目的である「サッカーを通じて会員相互の親睦をはかり、心身の健康を増進する。」をモットーにサッカーを楽しみ、健康な毎日を送っていきましょう。



今年のKSSLリーグは4月初旬に開幕して、夏場の休養期間を経て10月16日に最終戦を迎えました。そこまで6勝2分 勝ち点20で首位をキープ。勝てば文句なしの優勝、引き分けても優勝の可能性が残る大一番です。対戦相手は横浜シニア。しかし結果は0..1の敗戦で結局2位に沈みました。

~~~~残念! 優勝コメントも考えていたのに~~~~。

この試合についてはグラウンドコンディション・戦術など悔やまれる部分もありますが、勝つときもあれば負ける時もある、総じてみれば『よくやった!』という感想です。

チーム戦術としては昨年からの踏

襲で、慌てずにパスを回して相手を崩すことが功を奏し、また個人技が光る場面も多々ありました。

新加入のメンバーもすぐにチームに溶け込みなかなかの活躍を見せてくれました。もちろん63..64歳の年長組も刺激を受けて負けないように頑張れたことがチーム力アップに繋がったのだらうと感じています。

また毎試合参加者は20名近くになり、前半後半ではほぼ全員交代も可能で疲れの見え始めた相手に対してフレッシュなメンバーで戦えたことも勝因でしょう。

2022年度の1部は2チーム増えて12チームになります。

目標はどうしましょうか? やっぱ優勝ですかねえ。

もう一つのリーグ 全国シニアのほうでは23チームが3ブロックに分かれて7月4日に開幕しました。

現時点まで3敗1分で残す試合は3試合、1月末まで続きます。

3敗していますがいずれも接戦であり、得点さえ生まれれば勝てる要素は十分にあります。(4試合で得点0は、ただだけません。)

昨年と同じことを書きましたが、トーラス・ベガサス60の合同チームであり連携については足りない部分

はありますが、仲間をリスペクトして補い合いそして刺激あって良いチームで戦えていると思います。

さあ、次戦は必ず勝ちましょう! そして昨年度は中止になってしまった県議長杯のトーナメント戦も先日始まりました。

初戦(抽選により2回戦からの登場)は1..0の勝利をおさめベスト8です。

宿敵との対戦が続きますが、楽しく厳しく戦い、できるだけ勝利を積み重ねたいものです。

「リーグ戦で優勝を逃したので、このトーナメントは是非優勝を目指して戦おう!」とメンバーからは勇ましい言葉が出ています。

リーグ開幕の春先から秋口までコロナ禍は収まる気配も見せず猛威を振るっていました。各リーグの関係各位の努力と各チームでの徹底した対策、そしてもちろん選手各自の感染対策が功を奏し、ここまで大過なく進んできています。

本当にありがたく嬉しく、サッカーができる喜びを感じています。

10月に入りコロナの新規感染者数が不思議なことに急激に下がり、飲食店やその他施設への制限もほぼ撤廃されました。



さあ、待ちに待った日が来ました。大騒ぎしちゃいましょう。

とならない様に各自引き続き節制するようにお願いします。

今回もまた一つ、サッカー選手の名言を紹介します。

『テクニクは人から教わる事ができる、でもハートは自分で鍛えるしかない。』

あの闘将ラモス瑠偉の言葉です。

我々シニアは今更体力アップや技術の向上はほとんど望めません。

でも気持ちを強く持って練習や試合に臨むことは可能です。

あきらめずに最後までボールを追う、球際は厳しく競り合う、仲間を鼓舞する。

そんな姿勢で、さあこれからもサッカーを楽しみましょう。



## ペガサス50活動報告

55回生 藤原 新

2021年度のシニアサッカーリーグはここまで、新型コロナウイルス感染症を意識しつつも、ほぼ予定通りに試合

が開催されました。

ペガサス50は2017年度にKSL五十雀リーグで1部から2部に降格して以来、2018年度には3部へ降格し、その後3部でも上位での戦いができないなど、ここ数年間の厳しい時期が続きました。この状況を打破するべく、昨年度から積極的なリクルートを進め、2021年度は50代前半の選手を数多く迎えてスタートすることができました。新しいメンバーとの融合に時間がかかることも心配されたのですが、新たに加入された選手もみな気持ちのいい紳士で、コロナ禍にあつて懇親会などで親睦を深める機会がもてなかったにもかかわらず、早い時期に一つのチームとして機能することができました。

2021年度は、こうした選手の補強と既存の選手の頑張りが相まって、KSL五十雀ではリーグ終了時点で負けなしの4勝4分けの3位。11月に行われる2部との入替戦への進出を決めることができました。また、0-50神奈川リーグでは、4試合終了時点で2勝2敗。ここまで上位との対戦が多かったことを考えると、なかなかの健闘だと思われます。ペガサス50はもともと堅い守りを

基盤に、パスを繋ぎながらゴールを狙うというスタイルだったのですが、今期もKSL五十雀リーグ戦前半は無失点。ただ一方で0-0の引き分けが3試合と、得点力不足に悩まされ、勝点3を取り切れない試合が続いていました。上位のチームが好調だったため、リーグ戦残り2試合となった時点で、3位以上になるためには引き分けも許されないという厳しい条件におかれましたが、そこから3-2、6-1と得点力不足が嘘のような試合を続け、3位に滑り込むことができました。この2試合、最初の試合は2-0から試合終了5分前に2-2に追いつかれるという絶体絶命のピンチから、そこで下を向かず、ゴールを目指し試合終了直前に劇的なゴールで勝ち越すという試合で、チームの全体の士気も上がりました。翌週の最終戦は、その勢いそのままに前半から集中した試合運びで相手を圧倒するというこれまでになかった試合となりました。最高のチーム状態で入替戦に進むことになりましたので、ぜひ入替戦に勝って2部昇格を決めたいと思っています。

来季は今年度に還暦を迎える選手が6名ペガサス60へと移籍する予定

となつていきますので、来季に向けても多くの選手を迎え入れる必要があります。50代は責任の重い仕事をされている方も多く、「サッカーどころではない」と思われる方もおられると思います。また、長いこと身体を動かしておらず、「いまさらサッカーは無理」と思われている方もいらっしゃるでしょう。ただ、これから人生の次のステージを迎えつつある50代にとって、仕事ではない仲間、純粹に好きなサッカーでつながれる友達がたくさんできるペガサス50は、本当に貴重な場であると自信をもつて言えます。また、ペガサスで活躍中の選手の中にも、最初は5分の出場が精いっぱいだったにもかかわらず、慣れてくるにつれてプレー時間を増やして、現在ではフルタイムでプレーできる体力を取り戻された方も多くおられます。気持ちのいい仲間と気持ちのいい汗を流す楽しさをぜひ一緒に味わいましょう。迷われている方、これからの人生の中では今日が一番若いのですから、始めるなら今がいいですよ。

少しでも関心を持たれた50代のみなさん、まずは藤原 (khd03502@nifty.com) まじり連絡ください。



ペガサス40の今季の活動報告をさせていただきます。来季より、同級の深沢拓哉君と共に代表を務めさせていただきます。

ペガサス40では、主に土曜開催の全国シニア選手権予選O-40神奈川リーグ（以下「土曜リーグ」）に「湘南ベガサス40」単体として、主に日曜開催の神奈川県シニアサッカーリーグ（以下「日曜リーグ」）に今季からは「藤沢四十雀」と合併し、「湘南藤沢40」として参加しています。土曜リーグは加入初年度の昨季は2部でブロック優勝したものの1部との入替戦で引き分けて惜しくも昇格ならず、今季も2部リーグで戦うことになりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響の中、県サッカー協会や各チームのご尽力で何とかリーグ戦を消化し、Aブロック8チーム中4勝2分1敗の2位となり、10月からの順位決定リーグで昇格をかけて戦えることとなりました（5チー

ム中1〜2位は自動昇格、3〜4位は入替戦）。1部に昇格し定着することが当面のチームとしての目標になります。

チームメンバーは湘南OBのみで構成できることが理想なのかもしれませんが、仕事や家庭の事情から、サッカーから距離を置かざるを得ない人も多く、湘南OB以外の友人知人等を勧誘して参加して頂いている状況です。幸いにも、技術だけでなく人間性も優れた方ばかりで、練習、試合とも出席率が高く、自主トレーニングを積極的に行うなどサッカーに対する意識が非常に前向きな人が多く既存メンバーとの融合もスムーズに行われています。

但し、戦術面においては、目標とする1部定着レベルになるためには課題があります。守備面ではボールの奪い所の意識の統一が不十分で失点に繋がるケースがあります。また、攻撃面では、前線のポストプレーからサイドへの展開を試みていますが、狙い通りに行かず逆襲を受けてしまうことも多いです。技術の高い選手は多いので、前線へ放り込むだけの単調なサッカーではなく、DFラインや中盤での安定した細かいパス回し、思い切ったサイドチェンジ等、

緩急をつけて確実に相手の陣形を崩し、フィニッシュまで持っていけるサッカーをしないと2部では勝っても1部では通用しないと認識しています。

一方、日曜リーグは同じく2部での戦いとなり、12チーム中、6月までの8試合では一時は暫定首位となったものの9月からの3試合で勝点を伸ばせず結局5勝2分4敗の5位で終了となりました。とはいえ合併初年度としてはチームの融合も進み、来季に期待が持てる内容でした。また、合併相手の「藤沢四十雀」の土曜リーグでのチーム「ボンジボラ藤沢」と合同練習や練習試合を頻繁に行うようになり、土曜リーグのチーム力向上にもなっています。

40代は一般的には一番エネルギーシユな年代、何をやっても楽しい年代と言われています。サッカーをとくにやめてしまった同年代からは、「まだサッカーやつてるの？」と半分呆れ顔で驚かれます。確かに毎週末、足を擦りむいたり、肉離れを起こしたりして整体に通う40代は普通ではないのかもしれませんが、仕事、家庭等どこに重点を置くかは人それぞれではありますが、少なくともペガサス40の「大人になったサッカー

小僧軍団」のメンバーは皆、目がキラキラしています。きっとバランスよく仕事もプライベートもうまくこなし、健康的な40代を満喫しているのではないのでしょうか。我々は40代ですが、YouTubeで60代の全国シニアサッカー大会のなどを見ると驚きます。走れるし蹴れる。非常にレベルが高いです。

人生百年時代、もう一度サッカーをやってみたいなと少しでも思っている方は、ぜひ一度ご連絡を下さい。Never Too Late! (何をするにも遅すぎることではない)



平素より大変お世話になっております。若手OBチーム、トトカルチヨ湘南の長大地（88回）です。トトカルチヨ湘南は今シーズンも神奈川県サッカーリーグ3部（Bブロック）に参加しています。緊急事態宣言の影響で開幕は例年より遅れましたが、幸いにも5月〜7月に集中して試合



を消化することができました。10月末時点で6試合消化し、今シーズンは残り2試合となっています。ブロックによつては数試合しかできていないところもある中で、3Bブロックの幹事を中心に各チームで協力してグラウンドを確保し、なんとかリーグ戦を全試合終えようと努めています。

今シーズンのトトカルチョの戦績は、10月末時点で2勝4敗、9チーム中6位です。残念ながら今シーズンも2位以上には届かないことが確定しており、昇格の可能性は無くなつてしまいました。県3部リーグではありますが、若手中心の新規参入チームが増えており、上位チームは大学体育会出身者を多く擁している状況で、年々リーグのレベルが上がってきていると感じております。その中で2部昇格を勝ち取るには非常厳しい戦いを勝ち抜く必要がありますが、やりがいを感じられる環境でもあります。一方で、落としてはならない実力が拮抗している相手との試合において、当日の人数が十分でなく走り負けるなど、振り返ると勿体ない試合を多くしてしまいました。

湘南高校サッカー部OBで構成している為、年代はバラバラでも、あ

る程度チームとしては成立して戦うことができています。然しながら、連携面で甘いところがあり、不用意なボールロストからの失点等により敗戦が先行しています。これに関してはやはり実践あるのみだと思いますので、リーグ戦以外の練習試合など実戦の機会を増やしていきたいと考えております。

今シーズンは追加登録選手の加入により、チームに大きな変化がありました。1人目は若木均さん(64回)です。昨シーズンから試合を観に来ていただいたのですが、今シーズンからはプレーヤーとして参加頂いています。シニアチームからの移籍となりましたが、主にSBで全試合に出場され、適格な読みやコーチングでディフェンス面からチームを支えて下さっています。また戦術的なアドバイスも積極的に行っていたので、若手OBは大変刺激を受けています。2人目は矢野侑(96回)です。卒業したての大学1年生でスピードがあり、トトカルチョとしては待望の、攻撃的選手の加入となりました。今シーズンは途中加入でしたが、来シーズン以降も攻撃を引っ張る重要な選手になってくれることを期待します。私が大学生のOBコーチ時代にト

トカルチョに加入してから9年目になります。高校生の時には一緒にプレーできなかった世代の選手ともサッカーができ、湘南サッカー部の縦のつながりを年々強く感じています。学生にとつては就職活動の相談の場にもなっており、サッカーを楽しむことももちろんですが、様々な社会人経験を学び、人脈を作れる場所になっているので、ぜひ気軽に参加いただければと思っています。

最後になりますが、来シーズンこそは、昇格という良いご報告ができるように努めてまいります。今後ともご指導、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



湘南スプレッド活動報告

89回生 檜枝 賢護

89回生の檜枝です。今年度も、ビーチサッカー及び湘南スプレッドの活動報告の機会をいただき誠にありがとうございます。今回はチーム代表の79回生櫻井に代わり、檜枝が担当します。

湘南高校サッカー部OBで立ち上げたビーチサッカーチーム『湘南スプレッド1545』は、15年目を迎えました。

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの中、競技そのものの開催が危ぶまれるシーズンとなりました。昨年度と比較すれば活動の範囲は広がったものの、頻繁に変わる社会情勢に合わせ、自粛、延期、開催の判断を都度行いながらの活動となりました。大会に関しては、JFAの全国大会等、全国間の移動を伴う大会は引き続き中止となりましたが、関東地域においては、関東大会と関東リーグが開催され、コロナ対策ガイドラインに基づき競技を実施しました。ワクチン接種が徐々に浸透してきていることもあり、来年度こそはフルコンディションで競技に打ち込めることを切に願っています。

スプレッドの今期の成績は、関東大会2回戦敗退、関東リーグは10月31日現在で、0勝9敗(残り1試合)と、苦しいシーズンとなっています。今年度から関東リーグが2部制となり、現在所属している1部リーグで最下位になると2部との入れ替え戦にまわってしまうため、何があっても自動残留を果たすべく残り1試合を

全力で戦います。一方、82回生の渋谷選手が王者東京ヴェルディビーチサッカーチーム相手にハットトリックを決めるなど得点を量産しており、得点王争いに名を連ねる活躍を見せています。併せて、昨年度加入した私檜枝は日本代表候補に選出され、7月に実施された代表候補合宿に2度参加させていただきました。日本トップレベルの選手とチームメイトとしてプレーする中で、自分の技術不足や他の選手達との覚悟の違いなど、自分の至らなさを痛感した合宿となりました。代表に定着できるよう、さらなるトレーニングに励みたい所存です。

そんなビーチサッカー日本代表ですが、8月に開催されたFIFAビーチサッカーW杯において、史上初となる準優勝を成し遂げました。私檜枝はW杯メンバーには選ばれず日本からの応援となりましたが、茂矜羅オズ選手兼監督のもと1戦1戦魂を込めて戦い結果を残していく姿には心を打たれました。今回の結果により、日本のビーチサッカーの環境はどんどん良くなっていくと思われまふ。一方で、今大会のメンバーのポリウム層は30代前半〜半ばで最年少が27歳と、世代交代が急務で

あることも事実です。要するに、大学生や社会人なりたてでかつ何か競技に打ち込みたい人にとっては願ってもいないチャンスであるといえます。私自身、大学4年間こそ体育会サッカー部で週5〜6活動していましたが、その後大学院に進学してからは週1動けば良い方といった生活を送っていました。そんな状態からのスプレッドでも、1年間でひとまずここまでたどり着きました。日本代表のチャンスは思ったより目の前にあるかもしれません。若手OBの皆様、スプレッド一同ご参加お待ちしております。

最後にこの場を借りて、少しでもビーチサッカーに興味を持っていただけでしたら、ぜひ1度ビーチサッカーの体験にお越しください。早朝江の島を眺めながら、鵜沼海岸でボールを蹴りましょう。最高に心地よい朝と最高に疲れる下半身をお約束します。

これからもビーチサッカーを通じて、皆様に良き知らせを届けられるよう頑張つて参ります。引き続きご指導ご鞭撻のほど、宜しく願ひします。

連絡はこちらまで 櫻井大輔

＜sakuraid@jimconsult.com＞

湘南スプレッド1545 代表  
(二財) 日本ビーチサッカー連盟評議員 他



OB会の皆様、今年度も多大なご支援を頂きましてありがとうございます。

今年度も一昨年度末から続いております新型コロナウィルス感染症の影響で昨年に引き続き規制の多い年となりました。昨年度中止となった関東大会予選についても開催はされたものの、昨年度選手権2次予選進出校とKICKリーグに所属するチームのみでの開催となり、湘南高校は残念ながら出場できずに総体1次予選のみのシード決定戦を同時期に行う事となりました。

総体予選についてはなんとか開催されましたが、感染状況も悪くなる一方でその結果練習時間の確保や試合経験が乏しい中で始まることとなり、順当に勝ち上がるも3回戦で港

北高校に敗退することとなってしまいました。その後も感染状況の悪化によりU-18リーグの延期が続き、7月に予定されていた選手権1次予選についても7月中旬から8月中旬まで続くというとてもストレスのかかる日々が続きました。特に3年生はいつサッカーがいきなりできなくなるかという不安の中で、突然の高校サッカー引退を毎日覚悟しながらの非常に厳しい選手権1次予選となりました。延期延期となっていた選手権1次予選ブロック決勝日程についても新型コロナウィルス感染症の影響による自宅待機明けからなんと3日後に設定という事もあり、選手は非常にコンディションを整えるのに苦労しました。そんな中しつかりとブロック決勝に集中し勝ち切れたことは、学校をはじめ様々なご支援を多方面から頂けたことが大きな力となったと改めて感じております。そして、小柴氏の熱い指導の下、選手一人ひとりが地道な努力を続けてきたことも大きな勝因であると同時に、改めてコンディショニング専門スタッフやトレーニングコーチの存在は大きかったと感じております。これらは全てOB会の皆様や保護者の方々のご支援あつての環境である



ということを改めて実感し皆様には大変感謝致します。

その後再開されたU-18 K3リーグについてもなんとか無事全日程を終了することが出来ました。今年度は降格の危機もあり、リーグ戦についても長く厳しい戦いが続きました。後半に盛り返した結果5位となり降格を免れることが出来ました。再来年度からは現在のU-18リーグ4部制が6部制となる予定もあり、その前年つまりは来年度のU-18リーグ結果は高体連の大会シードにも大きく影響してくるということであり非常に重要な位置づけとなります。

こうしていよいよ9月に始まる選手権2次予選を戦う事となりましたが、2次予選についても規制が緩和され始めてきたもののやはり規制も多く無観客試合が基本であり、応援して下さっているOBの皆様にも観戦において様々な迷惑をおかけしましたことをこの場をお借りして詫言ひ申し上げます。2次予選の結果については皆さんも存じの通りベ

スト8で幕を閉じました。2回戦、3回戦でK2リーグを撃破し、準々決勝ではK1の三浦学苑と戦えたことは自信と誇りとなり選手一人ひとりの人生に、また湘南高校サッカー

部の今後に繋がっていくことと思います。

3年生については今年度もコロナの影響が様々な場面であり満足に活動することが出来なかった半面、通常の生活では気付けなかった日々のあたりまえの生活の尊さや、サッカーを通じた仲間の大切さやサッカーが出来る喜びを感じることが出来た貴重な1年でもあったのではないかと思います。大学受験がもう間近ではありますが、3年生には志望校を下げずには是非最後まで諦めずに戦い抜いて欲しいと思っています。

また、OB会の皆様には部活動自粛期間中や練習や試合において様々な場面でご支援頂きまして、ありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、チームは選手権敗退後間もなく新チームとなり、昨年同様小柴氏による基礎基本の徹底を掲げてスタートしております。満足に活動できなかったこの2年間でしたが、それでも限られた時間の中でも素晴らしい小柴氏の指導により止める、蹴る、ヘディング、対人についての成果がどんどん身につけてきていると選手並びにスタッフ一同実感しております。また、今年度は昨年度神奈

川県で認定された部活動指導員という小柴氏の立場が残念ながら継続できなかった関係で、保護者並びにOBの皆様のご支援により、昨年度と変わらぬ指導頂ける形となりましたことをご報告させて頂くとともに御礼申し上げます。今年度の選手権予選ベスト8という実績が1、2年生の背中には大きな力がかかってきますが、それを逆に励みに更なる成長を遂げられるようにスタッフ一同力を合わせて取り組んでいく所存です。

最後になりますが、来年の3月に予定していました湘南高校サッカー部海外遠征は残念ながら昨年度同様今年度も中止となりました。非常に悔やまれますが、前回に引き続き今回も関係各所でご尽力頂きましたOBの皆様には感謝を申し上げます。来年度には再開できることを願うとともに、OB会の皆様のご支援なくしては成り立たない海外遠征の為に是非引き続きのご支援をよろしくお願い致します。

今後とも引き続きの温かいご支援をどうぞよろしくお願い致します。



今年度も多大なる、また、温かいご支援をありがとうございます。昨年から続くコロナ禍のなか、様々な面で現役生にお気遣いいただき、大変ありがたいと思います。

今年度も昨年同様、コロナ禍の影響が残る中、関東大会の出場権を得ながらも（コロナウィルスの影響で、予選ができない地区があり、昨年度の選手権2次出場チームで上位大会を行ったので）、上位のトーナメントへの参加ができず、厳しいチームスタートとなりました。

今年度も継続して小柴氏に指導をしていただき、チームとしての戦い方も少しずつではありますが形を見せ始めたインターハイでは悔しい結果となりましたが、これを続けなければ必ずいいチームになれると信じ、3年生が中心となりチームを引っ張ってくれました。チーム一丸となり選手権に向けて必死にがんばってくれたと思います。

セカンドチームに回ってしまう3年生も、最後までスタートメンバーを目指して頑張ってくれました。その必死な姿は、後輩たちに最後まであきらめず、チームのために頑張ることの大切さを伝えてくれたと思います。この時期の3年生の気持ちは想像できないほどの辛さがあったかと思いますが、それを乗り越えてきた今、進路やこれからの人生にも役立ってくれると思います。

インターハイでの悔しさをばねにトレーニングを重ね、迎えた選手権一次予選ではコロナ禍の影響でスケジュールが二転三転する中、集中力を切らさずに二次予選進出を決めることができました。また、二次予選では格上の相手に一步も引くことなく、本場にぎりぎりの戦いではありましたが、勝利を重ね7年ぶりのベスト8進出。そこでの三浦学苑戦も結果は負けとはなりましたが、恥じることはない戦いできたと思います。これは湘南高校サッカー部の生徒たちが、最後まであきらめることなく全力でサッカーに向き合ってきたことの結果だと思っています。

毎年感じるのですが、このような素晴らしい経験を選手とともにできたことは、この湘南高校サッカー

部というチームが保護者の皆様をはじめ、OBの方々など様々な方に支えて頂けたからこそのものだと思います。そのような支援をいただくにふさわしいサッカー部を、今後もよりよくできるよう、これからも竹谷先生、小柴氏をはじめとするスタッフ一同で、選手たちの成長を支えていければと思います。

今後とも、温かいご支援を引き続きよろしくお願いいたします。



コロナ禍での2021年度全国高校サッカー選手権大会神奈川予選は、ベスト8という結果に終わりましたこと、ご報告いたします。初めに、会場やインスタライブで応援してくださったり、試合結果を気にしてくださったりしていたOBの皆様に感謝申し上げます。

緊急事態宣言等で、2次予選の予定は大きく変わり、私たちも相変わらず思うような練習ができないまま、

夏休みを過ごしましたが、部員一人ひとりが高い意識を維持したまま限られた練習時間でも最大限に結果が出せるよう努力してきました。

2次予選1回戦はインターハイ予選で一度負けている港北高校とのリベンジマッチとなりましたが、相手の3年生がすでに引退していたこともあり、安定の10番山内の活躍もあり無事に2回戦の平塚学園戦に駒をすすめることができました。

今回何よりも大きなターニングポイントになったと感じるのは、この平塚学園との試合の前に、神奈川の優勝校となった桐光学園と練習試合を組んでいただいたことです。結果としては、後半に3失点で負けてしまいましたが、前半はハイスピードな試合運びの桐光学園と互角に戦っていたことが私たちの大きな自信となりました。そして、2回戦の平塚学園戦は1-1の引き分け、我慢の延長戦後、ゴールキーパー三浦のスパーセーブもありPKを制して勝つことができました。桐光学園との試合に比べると平塚学園との試合は攻守の切り替えや全体的なスピードが遅く感じて、どこか余裕をもってプレーをすることができました。(もちろん勝ったから言えますが(笑))

強豪と言われる私立に勝つことできて本当にうれしかったです。

個人的に勝った喜びが一番強かったのは、ベスト8を決めた3回戦の相模原弥栄高校との試合です。この試合は、試合会場の都合により基本的に無観客ということで、家族に応援に来てもらうことができませんでした。1・2年生の部員と2年生マネージャー中野の協力によって、選手権の前から何度かインスタグラムで試合のライブ配信をしてもらっていて、この試合もモニターの向こうから家族が応援してくれるのはわかっていましたが、これまでずっと私たちを支えてくれてきた家族と次の試合は同じ場所と一緒に戦いたい、という思いから、こんなところで負けるわけにはいかないと強く思っていました。試合は0-0のまま後半終了数分前、宮崎がゴールを決めて、その一点を守り、勝つことができました。これでまた家族から試合会場で勇気をもらえると、うれしかったです。

残念ながら、次の三浦学苑との試合で私たちは力尽きましたが、最後の最後まで応援してくれた家族には本当に感謝しかありません。

もう一つ感謝しなければならぬ



のは、少しでも人工芝での練習機会を増やす、ということと、『みんなの鳩サブレースタジアム』（通称…鳩スタ）で2度も練習させていたこととです。これにはサッカー部OBの方のご尽力があったから実現したと伺いました。OB方の多方面からのご支援本当にありがとうございました。

最後になりますが、竹谷先生、小柴さんをはじめとするコーチの皆様、お世話になりました。私たちは『文武両道』の『文』を極めるべく、少々遅いスタートとはなりましたが、次の目標に向かって歩きだしました。これからOBとして湘南サッカー部を盛り上げていけるよう努力したいと思います。ありがとうございます。



2年 下村 聖樹

今年度現役報告をさせていただき、まず、2年下村聖樹です。日頃より、試合に応援しに来て下さったり、練

習場所の確保をして下さったりなどOB会の皆様による温かいご支援、ご協力に心より感謝致しております。今年度は、私たちに与えて下さるサッカーに対する意識を根底から覆す大きな年となりました。新型コロナウイルス

感染拡大の影響で、選手の体調を把握するために各自体温計を所持し練習前に検温の結果を竹谷先生に報告していました。選手権はワクチンの副反応であろう発熱においても出場停止になってしまったため、選手一人一人が日々の体調管理はもちろん、ワクチン接種の日程においても活動日程と照らし合わせて調整するなど、よりいっそう先を見据えて行動する意識を強めました。選手権一次予選決勝の直前ではコロナ感染による学校全体での自宅待機となり、部で集まった練習ができず厳しい状況ではありましたが、各自ランニングや筋トレを行い、できる限りのコンディショニング維持に励みました。そういった目まぐるしく変化する状況に対して自分たちのできることを一つ一つこなす意識の積み重ねが、今回神奈川県ベスト8という成績に繋がったのだと思います。

練習においては昨年から大きく二つ変化がありました。まず一つ目に

毎週火曜日は小柴さんによるリレー形式のランニングメニューを行っており走力向上に努めました。リレーにおいてワースト2チームは罰ゲームがあるので全員死に物狂いで走ります。その甲斐あって一試合の中で

最後まで走り切り技術を維持する体力を育くむことができました。そのデザートゲームでよくあったのはでんぐり返しです。僕は小学校時代の監督にもその時は罰ゲームでしたがたくさんでんぐり返しをする機会がありました。その為皆毎日毎日頭も背中も砂まみれです。しかし、そのでんぐり返しのおかげで試合中に転んだ時の受け身の取り方が上手くなったような気がします。もう一つ変わったのはヘディングです。毎日基礎練習やペアでの競り合いを地道に取り組んだことで今では空中戦での勝率も上がり、セットプレーは湘南の一つの武器となっています。強豪相手と試合を積む中で個人技術の差を知り、小柴さんがいつも重んじている基礎基本がいかに重要か改めて身をもって感じました。これからアップの基礎練習から集中して取り組み、技術の向上に日々励んでいきたいと思っています。

私たちの代は新型コロナウイルス

によって入学以前に想定していたものとは大きく異なる日々を過ごし、夏の通い合宿や県を跨いだ遠征など従来の湘南サッカー部らしい活動の経験が乏しいまま最上級生を迎えてしまいました。この先不安なこともや分らないことも多々あると思いますが、毎日の時間を家族以上に共に過ごすメンバーと協力して、個人の不足は仲間でもカバーし合うそのようなチームを目指していきます。下級生合わせて選手一同日々大好きなサッカーができることへの喜びと感謝を忘れずにこれからも精進していきたいと思っています。

今後ともどうぞ応援よろしくお願い致します。



## 編集後記

事務局長 48 回生 関 佳史

2021年度はコロナで活動が制限されました。4月1日には、昨年からの延期になっていた清水好郎元監督によるセミナーをリモートで開催。新2年、3年が参加しスペイン遠征を始めた経緯などを話しました。8月14日には藤塚久雄さんのセミナーをリモート開催。

定年を迎えて教員生活を振り返り、高校選手権ベスト16の思い出などを語りました。こちらは生徒に加えて全国各地の教え子のOBも視聴しました。また、後日に録画した映像をみていただいたOBも多数ましおた。リモート開催の利点もあるものでした。これで、2019年度から開始したセミナー3部作は終了しました。

湘南高校は百周年の年ですが、各種行事が制限の中、開催されました。5月1日、赤木苑が改修されてお披露目。合わせて、記念のミニメン

ルにて開催。この日に学校の百周年誌が発行されました。百年をコンパクトにまとめ、資料としても優れたものです。これに先立ち、10月21日に神奈川新聞で4Pの企画広告を掲載。12月から、記念式典の模様を湘友会HPで配信、神奈川新聞の紙面も公開される予定です。新聞の広告営業は相羽副会長と関が仕事で関わりました。69回の元榮太一郎さんの会社がスポンサーとして協力していただきました。

詳しくは湘友会HPをご覧ください。  
2022年1月8日(土) 18:30  
19:00で湘南高校百年を記念した番組をテレビ神奈川で放送します。「湘南高校百年 文武両道の核心」初代校長赤木愛太郎の理想」と題し、創立当初野球部ができなかった理由や校歌に潜む教育方針の核心に迫ります。サッカー部の国体全国制覇までの過程も簡単にたどり、スペイン遠征のことは相羽副会長がインタビューで答えています。こちらは、関の会社が企画制作します。インターネットで見逃し配信を実施する予定です。

サッカー部の百年記念誌制作については、8名の編集委員と植松二郎

さんには4年にわたったの編集・募金の作業を実施していただき、ありがとうございました。12月には漸く本という形になります。OB各位の皆様の予算で制作が完了できたことを改めて御礼申し上げます。この本は実質の著作者である植松二郎さんの了解を得て、サッカー部HPで公開することとなります。インターネット上のコンテンツをみて湘南高校を志望する中学生がかなりいます。湘南で勉強もサッカーも全力でやりた

いという生徒の志望のきっかけになればと思います。  
余談・11月2日の湘南百年記念式典は73回石原真樹さん(サッカー部マネージャー)が東京新聞の記者として取材してくれました。サッカー部のつながりがいろいろなところ広がっています。

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/140637>



湘南サッカーの  
ホームページを  
ご覧ください

湘南サッカー  
で検索。

湘南サッカー部のホームページは、45回生浅倉泰氏が立ち上げ、現在も管理・メンテナンスを行っています。

現役、OB会、ペガサスの各情報を的確に取り上げ、会報・記念誌のPDFによる掲載など、年々充実してきています。OBからの近況や写真の投稿などは思いがけない出会いの場ともなりますので投稿をお願いします。

「中メール」で始まり「中さんのつぶやき」で合計200回を数えた、鈴木中先生の寄稿は、現在ひと休みです。

世界の、日本の、湘南のサッカーへの見方は昔も今も変わらないものがあります。

今回、2003年3月のスペイン遠征に関するものと昨年の最終回の寄稿を掲載します。是非一度アーカイブスをお読みいただきたくまた、HPをご覧くださいたくお願い致します。



「中メール・NO 32」  
「スペイン遠征・経過報告」

2003年3月15日

春休みに「スペインへ遠征します」という話を聞いた時 多くのOB諸兄は「え・」と思ったであろう。しかし考えてみると30年前に「静岡・京都・広島」と春休みに遠征試合をやってきたわけで、現在海外へ遠征することがそんなに意外な事ではなく 不可能な話では無いことに領いてもらった訳である。

さて話は昨年「日本サッカー協会の海外指導者研修旅行」に湘南の現監督の清水先生が神奈川県を代表して参加された。実際に現地「ビルバオ」でユース年代の選手の育成状況を見て「湘南高校の選手」にもできると言う感触を掴んで帰ってこられて 実状を踏まえ手順を踏んで実現の運びとなった。

ビルバオと言う所は 皆さんご存知かと思いますが「バスク・」地方で純血主義を頑固に押し通している所で「アスレチック・ビルバオ」と言うトップのプロチームの興行収入を 地元の施設設備に投資して 素晴らしい芝生のグラウンド4面・人工芝2面を持ち 子供達の育成に力を入れている。

「百聞は一見・」見て覚える 肌で感じて理解する 世界のサッカーを出来れば感じさせたい。スケジュールの中にユーロ予選「イングランド対トルコ戦」是非ロンドンでの国際試合を観戦させたい。湘南高校に来たのだからその中で「湘南の良さ」として実現させても良いのではないかと思う。

私自身この遠征のテーマを具体的にいくつか考えている・・・

- 1、インサイドキックの強いボールの蹴り方をどう指導しているか。
- 2、股関節を柔らかくさせるには子供達をどう指導しているか。
- 3、湘南高校のサッカー部の生徒が海外で何を学んでくるか。
- 4、クラブと地方協会のかかわり方はどうなっているか。

等々多くのテーマを持って行く訳だが、何かひとつでもお土産を持って帰れば良しとしている。そしてこの経験を 神奈川県サッカー協会も湘南高校も今後どの様に生かして行くかが大きな課題となるだろう。尚 OB会から多額のご援助を賜わり役立てた事に この場を借りて厚くお礼申し上げたい。

さて 順調に準備が進み「保護者」の人達とも顔合わせを済ませ 旅行者（JTB・湘南OB・53回生）への支払いなども終わり全ての準備が完了した。そんな時に「イラクの戦争問題」が深刻になってきた。英国航空で行く、スペインはアメリカ側だから心配だ という声も聞こえてくる。どうしよう・・・

平和な世界を祈り・・・「ビルバオ」の芝の上で思いっきり「湘南高校の選手」にボールを蹴らせたい。

**\*その後イラク戦争勃発により、第1回スペイン遠征は直前に中止となりました。（編集部）**

「中さんのつぶやき・NO 15」  
通算200回 ありがとう・最終回

令和2年12月末日

中メールも今回で最終としたい。残念な気もするが小休止であり、また復活する気持ちが起きたら、書きたいと思う。さて何を書こうか迷ったが、私の湘南高校28年間とその後の人生の中で、心に残ることは公私ともにお世話になったお二人の指導者の事を伝えておきたい。

まず第一に挙げられるのは、故人になるが香川幹一校長である。知る人ぞ知る名物校長であるが、私の中では約30年間、職場の長であり、師であり、個人的には仲人であり親父のような方であり、大校長であった。

一方サッカーの鬼と古いOBが云っていた岩淵先生は私にとってはサッカーの師であり歴史あるサッカー部のOB会の要であり、すべて先生がOB会の壁となり支えて下さり、私も思い切って生徒達の指導が出来たと感謝している。

28年間の指導実績は沢山あるが代表的なものを幾つか挙げてみよう。

- 昭和37年・3年牧村、2年長谷川、1年小泉、全国大会（西宮）
- 昭和41年・3年井出、2年関口、水戸開催、関東大会優勝
- 昭和64年・平成元年、3年・若木、全国大会ベスト16等の戦績がある。

この様な輝かしい戦績を残したことは勿論生徒諸君の努力の賜物であったと思うが偉大なお二人の先生の後押しがあったからだとも云える。

コロナの時代リモートの会合の時代、なかなか集まって話をする事が出来ないので私からも是非提案したいと思う。リモートのOB会を考えよう。

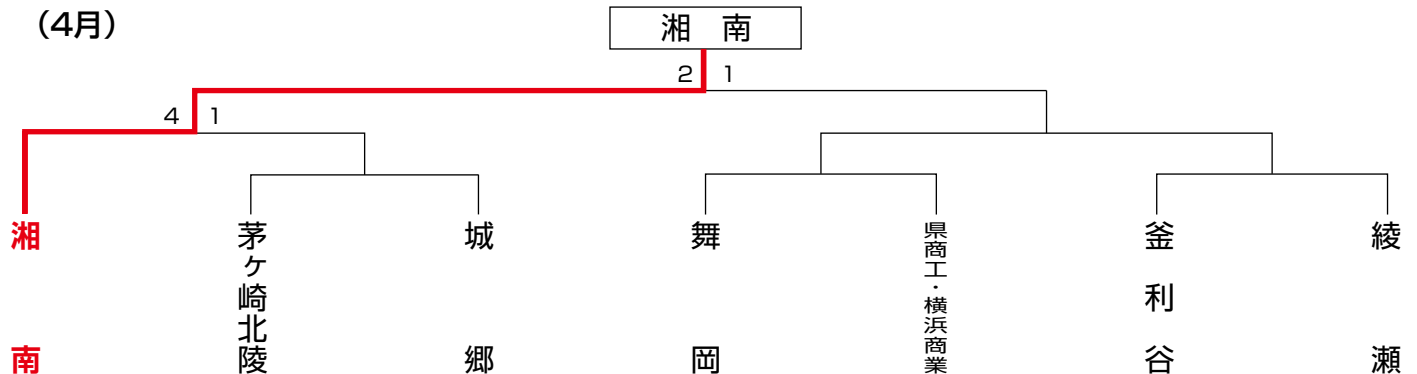
尚毎回協力していただき「アジショナルタイム」として原稿を掲載していただいた、三村氏は今回は「皆様に宜しく」と云うことです。尚この方は私にとっては大先輩であり、元日本代表のCBで私のサッカーの師であり古い仲間、今年90歳を迎え元気にされています。

OB諸兄姉、長い間有り難うございました。良いお年をお迎えください。

令和2年12月末日

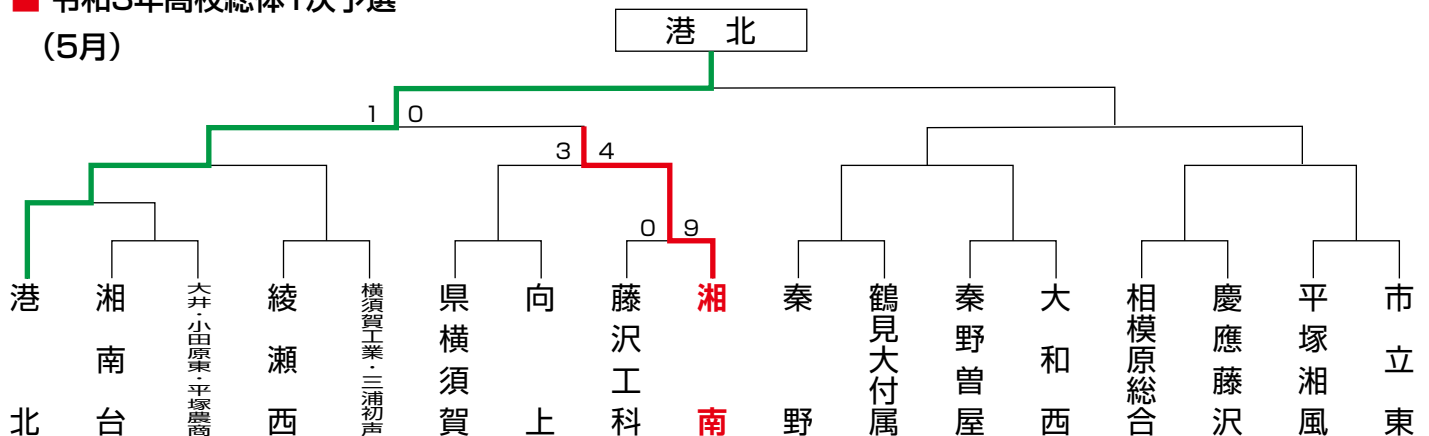
【総評】今年も3大会(関東・総体・選手権)とも行われましたが、県予選においては、コロナ禍の影響で日程・内容変更など厳しい状況でした。合同練習が制限される中、基礎練習を今まで以上に徹底し、今年は粘り強い戦いが出来たと思います。なお、試合結果・詳細は「現役情報」で逐次発信しています。

## ■ 令和3年関東大会2次予選Cブロック (4月)



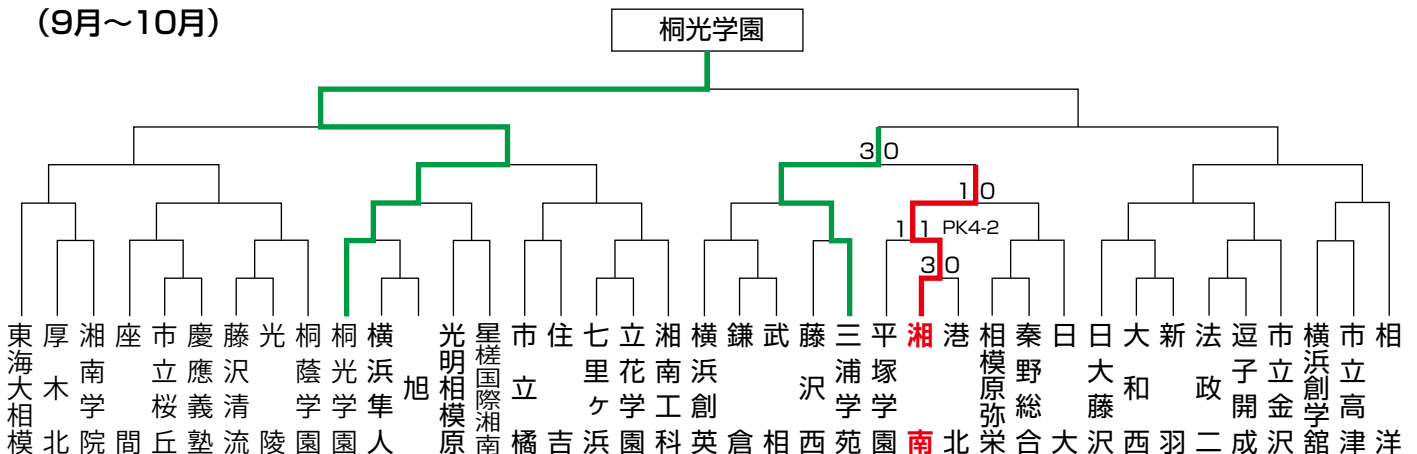
本大会出場を掛けた予選は昨年の成績を基に32校で行う。湘南はそれ以外のBブロック(15に分ける)で次大会のシードをかけて戦う。

## ■ 令和3年高校総体1次予選 (5月)



1回戦大勝の後、実力校との対戦。点の取り合いとなったが最後まで走り粘り勝ち。ブロック準決勝は点が取れず苦杯を喫す。

## ■ 令和3年全国高校選手権大会2次予選 (9月～10月)



7年振りのベスト8。2回戦以降、格上校との戦いであったが、いずれの試合も集中を最後まで切らさず戦い抜き、見事ベスト8に進出。三浦学苑戦は一瞬のスキで失点をしたが、得点チャンスもあり悔しい結果であった。



## 【令和3年度 会計報告・予算案】

### 収入

|       | 令和3年実績    | 令和4年予算    |
|-------|-----------|-----------|
| 会費・寄付 | 1,159,000 | 1,370,000 |
| 前年度繰越 | 615,032   | 502,954   |
| 利子    | 0         | 0         |
| 計     | 1,774,032 | 1,872,954 |

※収入見込み社会人 145名、学生40名が納入  
 $10,000 \times 105 \text{名} + 5,000 \times 40 \text{名} + 3,000 \times 40 \text{名}$

### 支出

|               | 令和3年実績    | 令和4年予算    |
|---------------|-----------|-----------|
| 現役寄付（付属戦補助含む） | 500,000   | 500,000   |
| 蹴球祭           |           | 90,000    |
| 通信・事務費        | 131,878   | 150,000   |
| 印刷費           | 189,200   | 200,000   |
| 100周年積立       | 200,000   |           |
| コーチ謝礼等        | 250,000   | 250,000   |
| 繰越金・予備費       | 502,954   | 682,954   |
| 計             | 1,774,032 | 1,872,954 |

●創部100周年記念事業に向け、予算面では、10年前より少しずつでもと内部留保に努めてまいりました。そのためにも、是非皆様の会費納入をよろしくお願いいたします。現在積立金は、¥2,400,569 - になりました。

### 現役寄付・会計報告 令和2年11月15日～令和3年11月10日

| 収 入     |         | 支 出       |         |
|---------|---------|-----------|---------|
| 前年度から繰越 | 0       | 遠征補助      | 0       |
| 寄付      | 500,000 | トレーニング用品等 | 164,270 |
| その他     | 0       | 筑波大附属定期戦  | 0       |
| 計       | 500,000 | 会場・試合等    | 128,140 |
|         |         | 参加費等      | 5,000   |
|         |         | 海外遠征関連    | 0       |
|         |         | ボール       | 138,000 |
|         |         | コーチ費用     | 64,590  |
| 繰越金     | 0       | 計         | 500,000 |

## 【4年度会費納入の件】

3年度は皆様の御協力ありがとうございました。本年もよろしくお願いいたします。社会人の方は、できましたら2口以上の寄付をお願いいたします。（振り込みには卒業年を入れてください）

- ・社会人 1口 5,000円
- ・学 生 1口 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、御欠席の方は同封の用紙にてお振込み下さるようお願いいたします。なお、下記銀行口座も受け付けていますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金 口座番号 019166  
 湘南高校サッカー部OB会  
 武藤俊一 TEL. 0466 - 34 - 9329

### お問い合わせ・ご質問は

#### 【ホームページアドレス】

湘南サッカー  で検索。

湘南サッカー部OB会  
<http://www.shonan-soccer.com>

#### 【メールアドレス】

関 佳史（事務局）  
[seki6644@yahoo.co.jp](mailto:seki6644@yahoo.co.jp)

武藤俊一（事務局）  
[muto-s@jcom.home.ne.jp](mailto:muto-s@jcom.home.ne.jp)

横山雅行（事務局）  
[m-yokoyama@heiwa-sangyo.co.jp](mailto:m-yokoyama@heiwa-sangyo.co.jp)

2年ぶり、学校でお会いしましょう

## [蹴球祭・総会のご案内]

期日：1月9日(日)

場所：湘南高校(グランド、清明会館)

皆様のご参加をお待ちしています。

|                                   |                    |
|-----------------------------------|--------------------|
| 09:30～10:50                       | 若手紅白戦(現役参加予定)      |
| 11:00～12:00                       | 総会 幹事会は9:30～11:00  |
| *この時間にペガサスは練習できますが、OBは総会に出席してください |                    |
| 12:15～12:30                       | 現役交歓式              |
| 12:30～13:30                       | 食事                 |
| 13:30～15:30頃                      | 原則40以上「OB+ペガサス交流戦」 |

\*新型コロナの状況などにより内容変更の場合があります。ご了承ください。

\*受付は総会終了後12:00から開設し、会費納入と引き換えに弁当を配布します。

\*グランドでのプレー時以外、マスク着用は必須です。よろしくお願いいたします。

